

九州圏広域地方計画 中間評価

概要版

平成26年9月



九州圏を取り巻く現状について

(1) 九州の人口動向

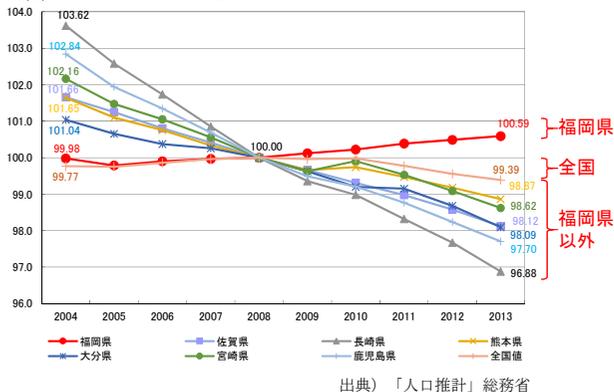
○九州圏の人口（全国の約1割）は、減少傾向にあるが、減少ペースは緩やかに。

- ・全国よりも人口減少が早い。
- ・ただし、最近の人口減少ペースは計画策定時よりも若干緩やかになっている。（2010年時点の人口は、計画策定時の予測より6万人ほど多い）。

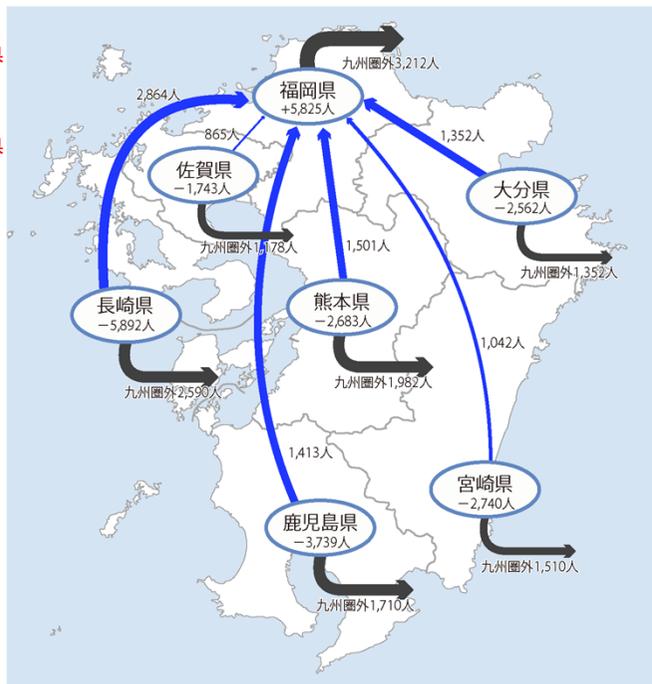
○一方で、九州圏の人口は、福岡市に集中。

- ・福岡市への人口集中が進み、福岡県の人口のみ増加。福岡市が九州圏の人口流出に対するダム効果を発揮。
- ・福岡市は政令指定都市で人口増加率、増加数とも1位。若者割合も3割と高い。（熊本市、大分市も人口がわずかながら伸びている）

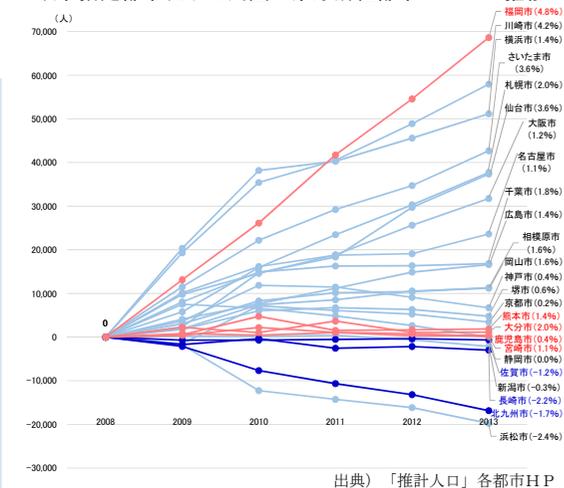
＜人口の伸び率（対2008年）県別＞



＜九州各県における転入（転出）状況＞



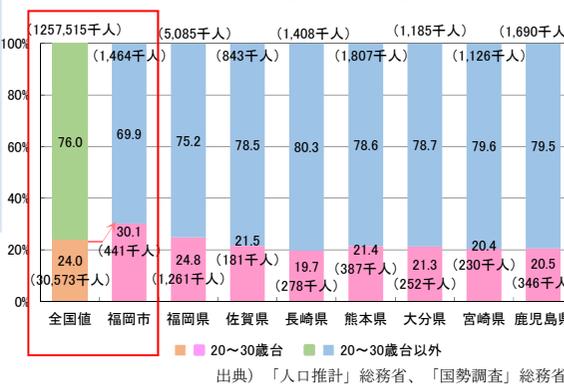
＜政令指定都市及び九州圏の県庁所在都市の人口の推移＞



＜九州圏の将来人口推計の比較＞



＜20～30歳台の人口割合＞



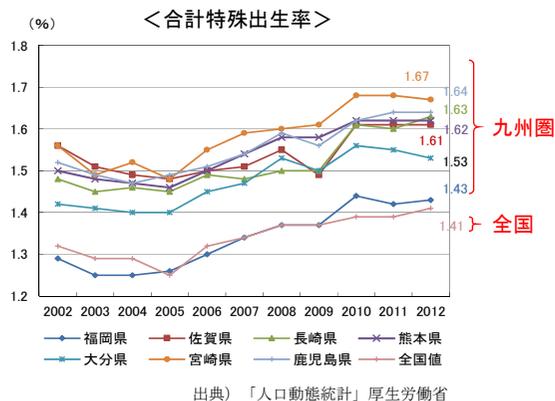
九州圏を取り巻く現状について

(1) 九州の人口動向

○出生率が高いが、生産年齢人口の流出が見られる。その抑制が重要。

- ・九州各県から圏域内の大学への進学率が低い。また、就業環境が厳しく、生産年齢人口が流出。
- ・一方で、年少人口と高齢者人口が多い（合計特殊出生率が高いことや高齢者のU I Jターンによる）。

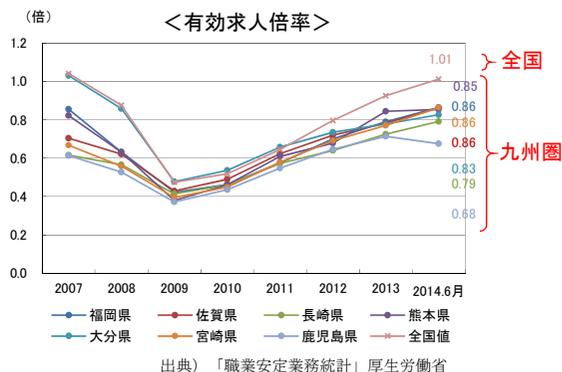
合計特殊出生率は
全国に比べて0.2ポイントも高水準



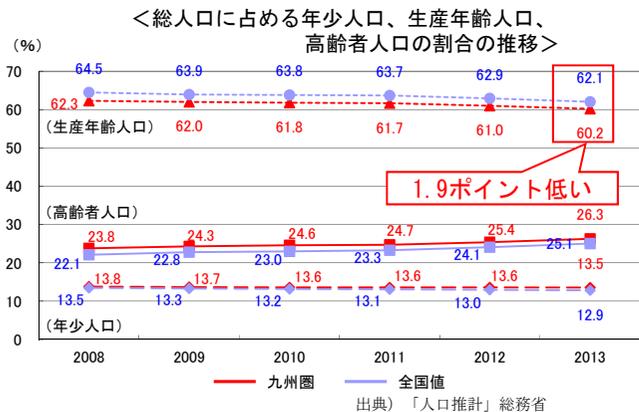
地元(九州圏内)への大学進学率が低い



就業環境は全国に比べて厳しい

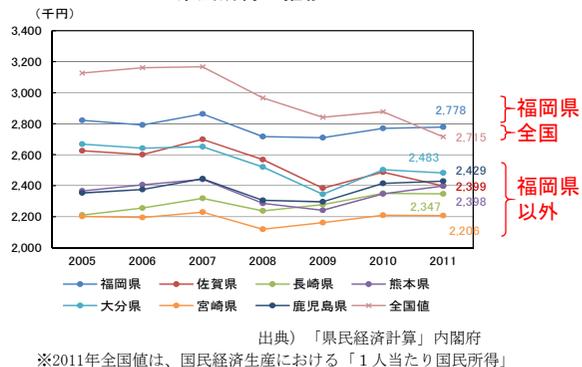


年少人口率は
全国より高い



生産年齢人口が
域外へ流出

＜県民所得の推移＞



生産年齢人口の流出抑制が重要

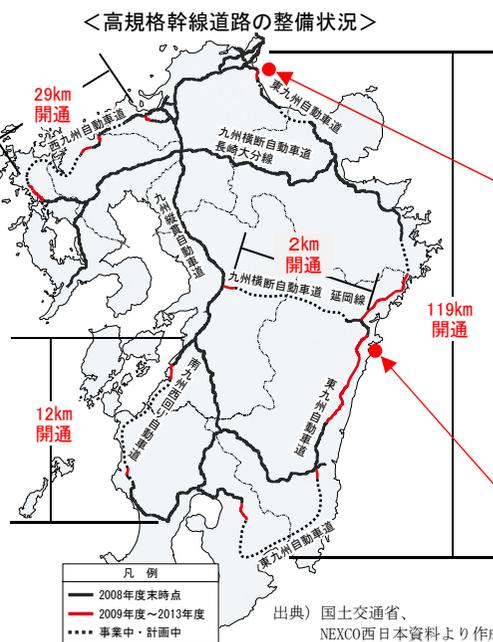
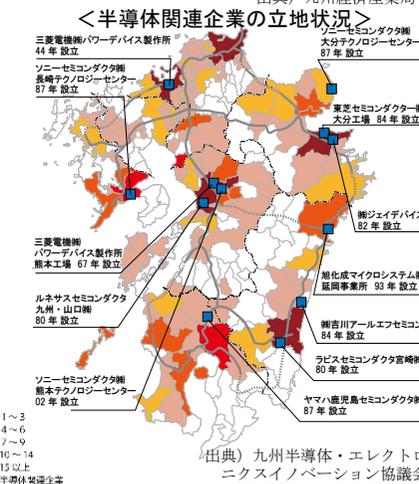
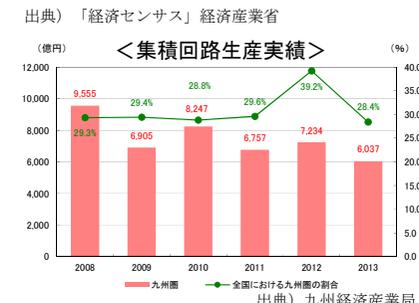
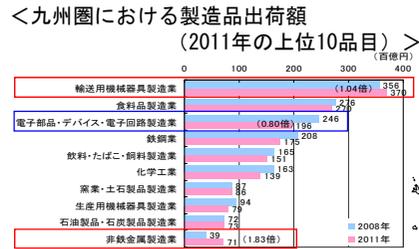
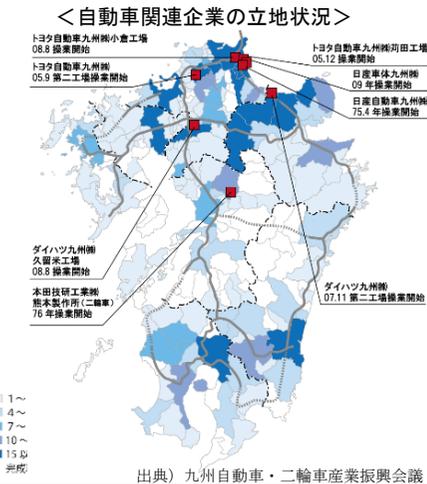
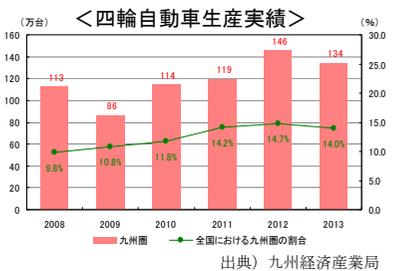
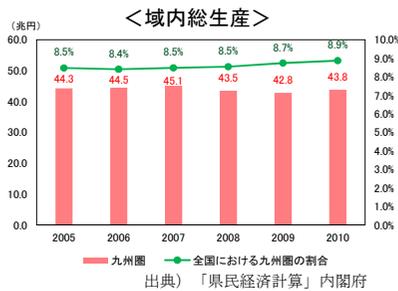
九州圏を取り巻く現状について

(2) 九州の産業経済及び通商

○九州圏の域内総生産は44兆円（全国の約1割）。一国の経済力に相当する域力をもつ九州圏。

■自動車、非鉄金属製造業の伸びが大きい。

- ・自動車生産台数は146万台（国内シェア14%）と過去最高。一方で半導体は周辺国の台頭で国内生産が減少しているが、九州には国内の3割が残存。
- ・東九州自動車道の整備が進み、東九州の企業立地が増加。北九州空港の航空貨物拠点化への期待が増大。



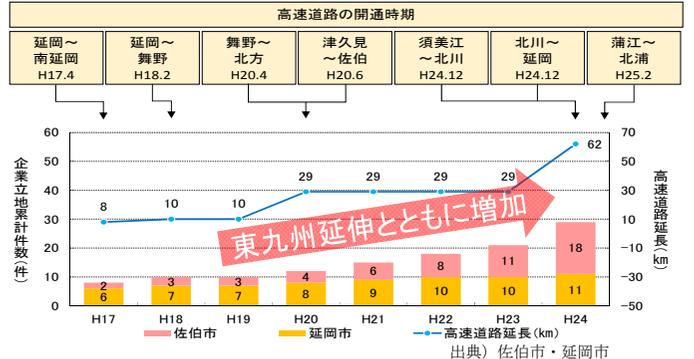
<北九州空港の国際貨物定期便就航式>



<細島港のガントリークレーン2号基竣工式>



<佐伯市・延岡市の企業立地数(累計)の推移>

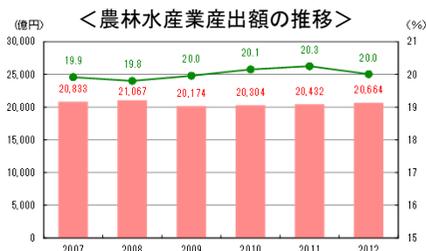


九州圏を取り巻く現状について

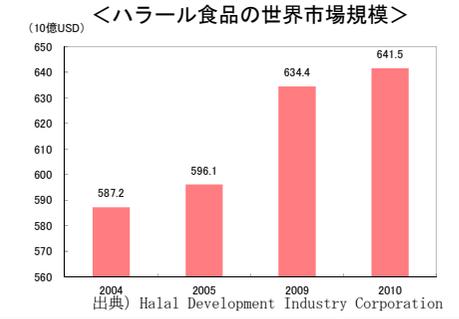
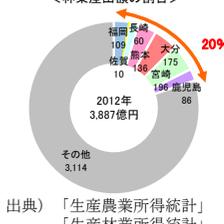
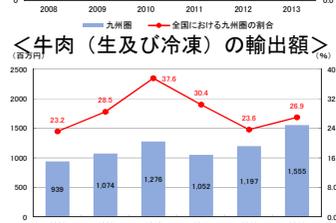
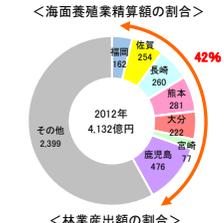
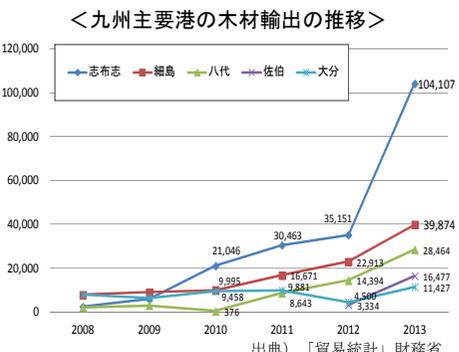
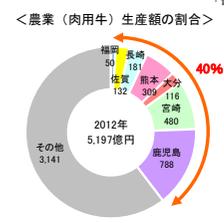
(2) 九州の産業経済及び通商

■農林水産業は全国シェア約2割を生産。

- ・特に肉用牛、海面養殖業のシェアは4割超え。
- ・九州一丸となった農林水産品の海外展開を推進。いちご、牛肉、ぶりフィレ、木材などの輸出は過去最高。
- ・全国の木材輸出の6割強を九州3港で占める。
- ・農業の法人化など経営基盤強化が進む。
- ・イスラム圏に向けたハラール認証取得企業が九州にも出現。



<九州圏における農水産物の産出状況>



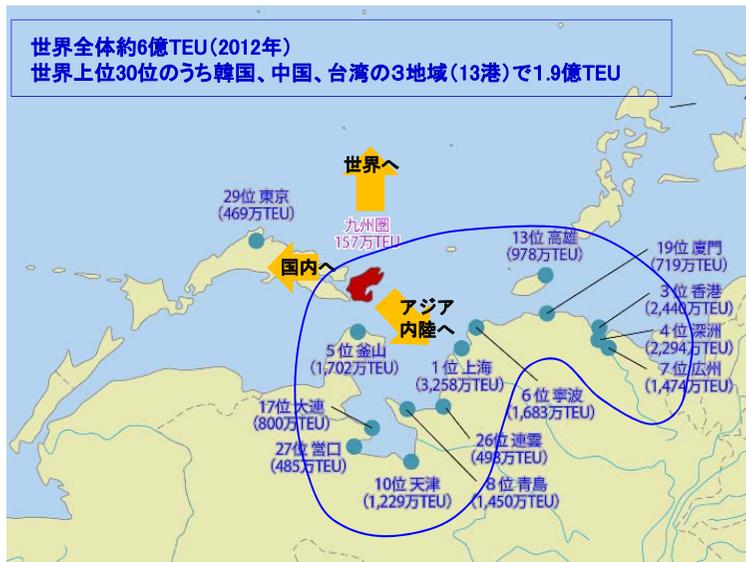
九州圏を取り巻く現状について

(2) 九州の産業経済及び通商

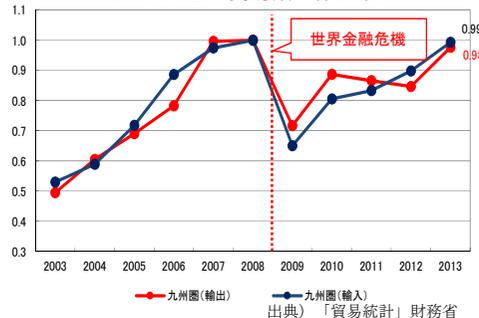
○九州圏とアジア・世界との貿易額は、世界金融危機からほぼ回復。自動車及び有機化合物の輸出が増加。

- ・九州は我が国のアジアへのゲートウェイ。東南アジアとの経済連携（MOU）も進む。
- ・外貿コンテナ取扱が157万TEUと過去最大。
- ・九州圏における博多港の荷役量がこの15年で2.4倍。博多港の大水深化の推進、荷役の効率化・迅速化のための輸出入コンテナのステイタス確認システム（HiTS）の導入、荷役機械の電動化等が効果を発揮（日本初 港湾環境賞金賞受賞）。

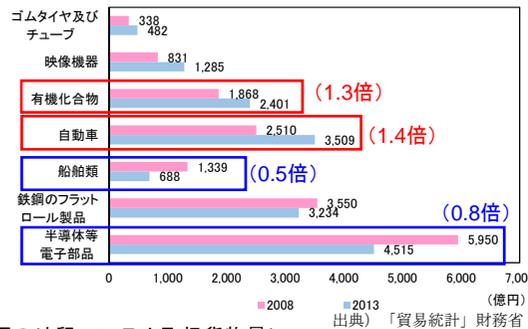
＜アジアへのゲートウェイとしての九州＞



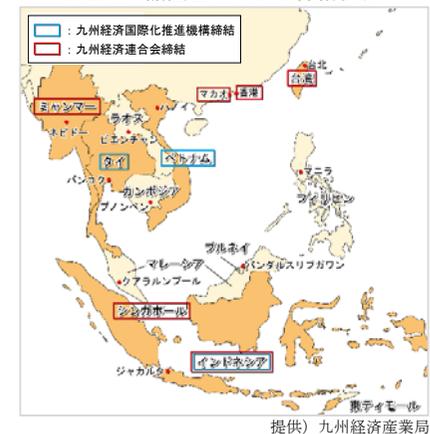
＜アジアとの貿易額の伸び率＞



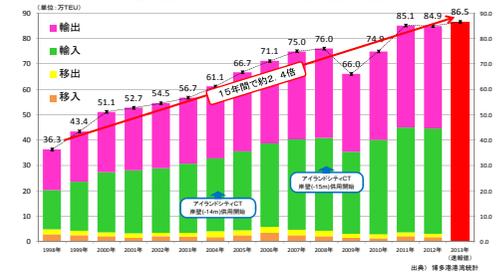
＜九州圏からアジアへの輸出額(品目別)＞



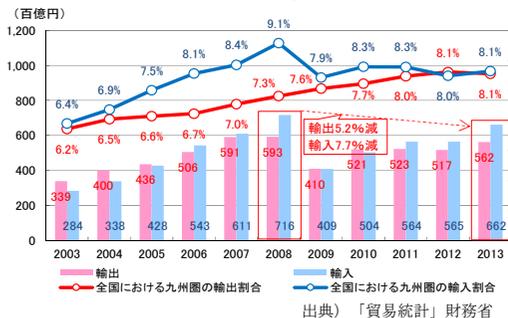
＜ASEAN諸国とのMOU締結状況＞



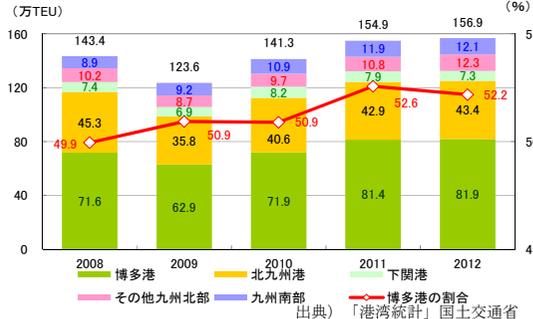
＜博多港のコンテナ取扱貨物量＞



＜九州圏における輸出入額の推移＞



＜九州圏の外貿コンテナ取扱貨物量＞



＜博多港コンテナヤード＞



＜荷役機械(トランスファーレール)の電動化＞



九州圏を取り巻く現状について

(3) 九州の観光交流

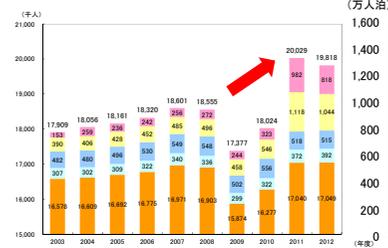
○九州新幹線開業の効果が大きい。

- ・府県間鉄道旅客は、大幅増加。域内の宿泊者数も順調に増加。新幹線駅からのレンタカーによる周遊観光も増加。
- ・熊本、鹿児島両県の観光入込客数が新幹線開通前後で2～4割増加。

○九州一丸となった観光振興の促進。

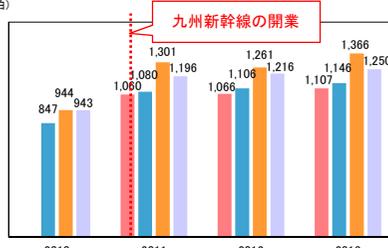
- ・九州アジア観光アイランド特区の指定を踏まえた特区ガイドの育成。
- ・九州観光推進機構と連携した知事によるトップセールスの実施。
- ・地域と連携した九州を周遊する観光列車の運行。九州各地に「九州オルレ」も12コース整備。

<府県間鉄道旅客流動人員数（総数）>



出典) 「旅客地域流動調査」国土交通省

<延べ宿泊者数（季別）>



出典) 「宿泊旅行統計調査」国土交通省
※2010年1～3月は、調査方法が異なるため集計に含まない

<九州アジア観光アイランド特区ガイド育成研修開講式>



出典) 福岡県

<観光列車の運行ルートと九州オルレのコース設定状況>



<九州オルレ 唐津コース>



提供) 九州観光推進機構

<観光列車：おれんじ食堂>



提供) 鹿児島県

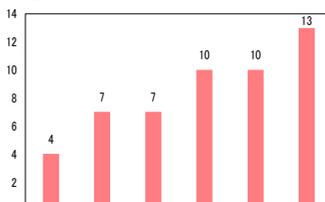
*九州アジア観光アイランド総合特区(九州圏全域)

<九州観光プロモーション派遣団によるトップセールス>



提供) 九州運輸局

<観光列車の運行状況>



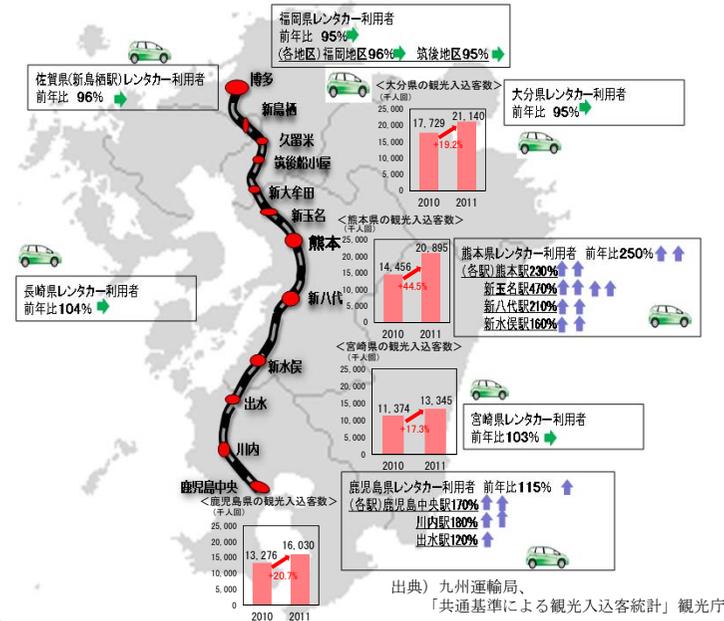
出典) 九州運輸局、各社HP

<観光列車：ななつ星in九州>



出典) J R九州HP

<レンタカーの貸渡状況と観光入込客数>

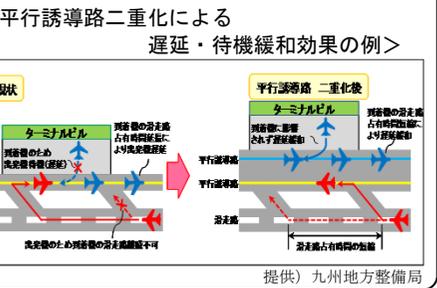
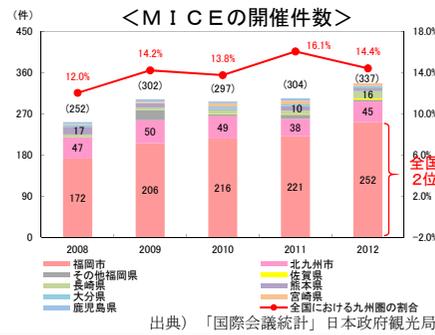
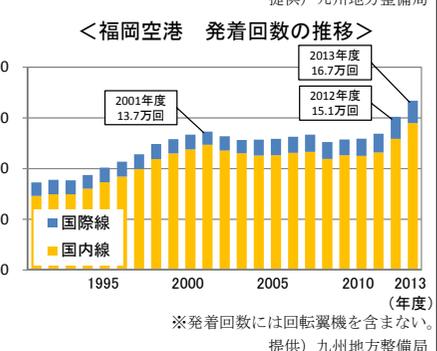
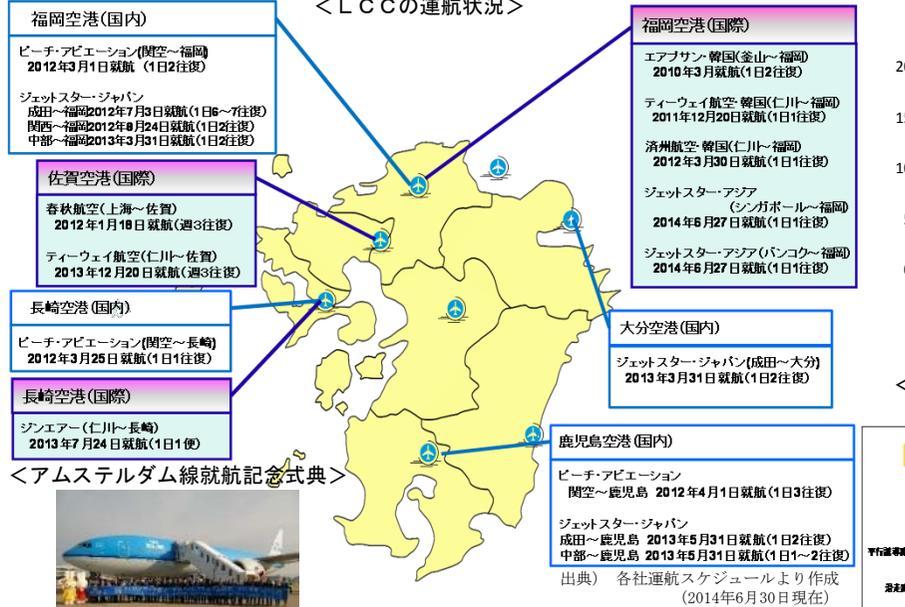
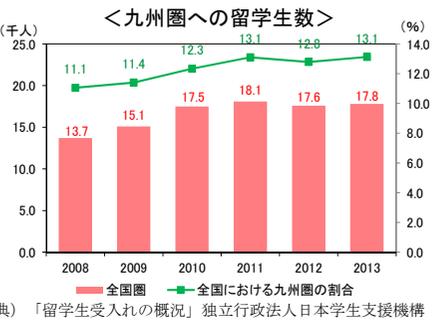
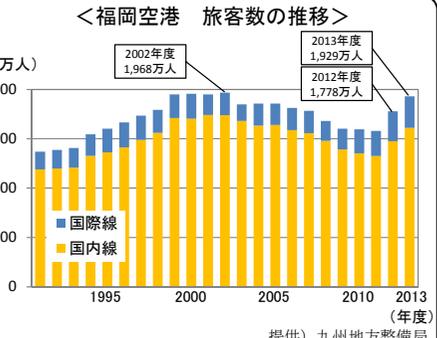
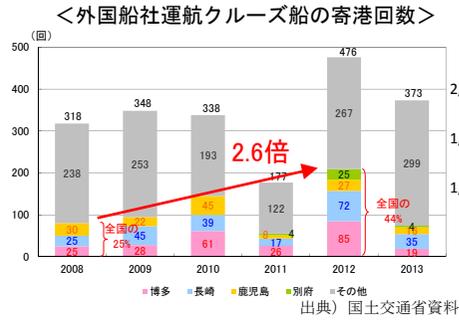
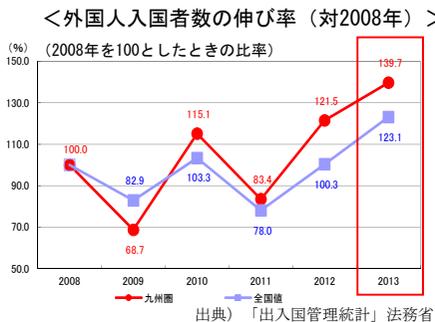


九州圏を取り巻く現状について

(3) 九州の観光交流

○外国人の九州への来訪が顕著に増加。

- 外国人入国者数は121万人と過去最高。2013年は2008年に比べて40%増加。全国の伸び率を上回る。留学生数も増加。
- MICE開催件数は福岡市で過去最高。全国2位。国際会議場の増設を計画中。
- 格安航空会社（LCC）の国内外路線の新規就航が相次ぐ。
- 外国船社運航クルーズ船の寄港回数は2012年に2.6倍、全国の4割を占める。
- LCCやヨーロッパ便の新規就航等で福岡空港の過密化が深刻。羽田・成田に次ぐ全国3位の旅客数を誇る。空港能力向上のため、平行誘導路の二重化や滑走路増設に係る環境影響評価の手续等を推進。



九州圏を取り巻く現状について

(4) 九州の自然災害対策

○九州圏は風水害・土砂災害（台風の上陸数が多い）や火山災害の頻度が高く、近年では南海トラフ地震による被害も懸念されている。

・風水害・土砂災害

- 川内川豪雨（2006. 7）：浸水被害136箇所、浸水戸数2,347戸、浸水面積2,777ha等の被害が発生。河川激特事業を実施済。
- 奄美豪雨（2010.10）：死者4名、負傷者数2名、浸水戸数1,583戸等の被害が発生。災害発生直後から、道路や通信手段が寸断され、九州地方整備局はリエゾン、TEC-FORCEを現地派遣し現地支援。離島災害の重要性が認識された。床上特緊事業を実施中。
- 九州北部豪雨（2012. 7）：九州北部を中心に、河川氾濫、道路の被災、土砂災害、市街地浸水被害が発生。死者31名、行方不明者3名、重軽傷者32名。九州地方整備局では、リエゾン、TEC-FORCEを派遣し、技術的支援等を実施。激特事業、床上特緊事業を実施中。

・火山災害

- 新燃岳（2011. 1）：52年ぶりの爆発的噴火が発生。九州地方整備局が緊急的土石流対策を、九州森林管理局が治山対策を実施。
- 桜島（2009～）：噴火活動が2009年から活発化（毎年1,000回以上の噴火。2013年8月には、観測史上最大となる噴火を記録。）

・南海トラフ巨大地震による被害想定

「南海トラフ巨大地震の被害想定」（内閣府）により、宮崎県・大分県を中心に、津波高さ最大で17m、被害浸水面積27.6千ha（約27%）、被害者数11.1万人（約7%）、被害額8.2兆円（約5%）と想定。津波に強い地域づくりや広域支援の構築などが重要。

<川内川豪雨>



提供) 九州地方整備局

<九州北部豪雨(白川)>



提供) 九州地方整備局

<奄美豪雨>



提供) 九州地方整備局

<新燃岳噴火>



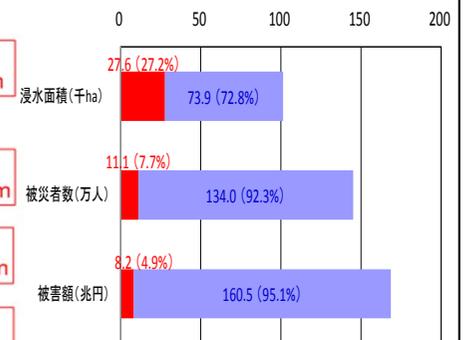
提供) 九州地方整備局

<南海トラフ巨大地震の津波高と津波浸水域>



出典) 「南海トラフの巨大地震モデル検討会」内閣府

<南海トラフ巨大地震による被害想定>



■九州圏 ■九州圏以外

出典) 浸水面積、被災者数は、「南海トラフ巨大地震の被害想定」内閣府
被害額は、「南海トラフ地震、都道府県の被害額一覧」日本経済新聞

九州圏を取り巻く現状について

(4) 九州の自然災害対策

○大規模自然災害に対する備えの進展。

- ・南海トラフ巨大地震に備えた広域訓練など、総合的な津波防災対策の推進。
- ・九州地方整備局は、災害時市町村の円滑な応援を実施するため「大規模災害時の応援に関する協定」締結。
- ・「道の駅」の防災拠点化（既存施設の有効活用）。避難階段等の整備。
- ・TEC-FORCE等による広域支援。
- ・災害対策用機械（照明車及び散水車）を口蹄疫、鳥インフルエンザに対する防疫対策の強化に活用。
- ・社会資本の老朽化対策のため、点検・診断の高度化や人材育成も含めた総合的な対策を推進。

<南海トラフ等巨大地震を想定した
総合防災訓練(宮崎県宮崎市)>



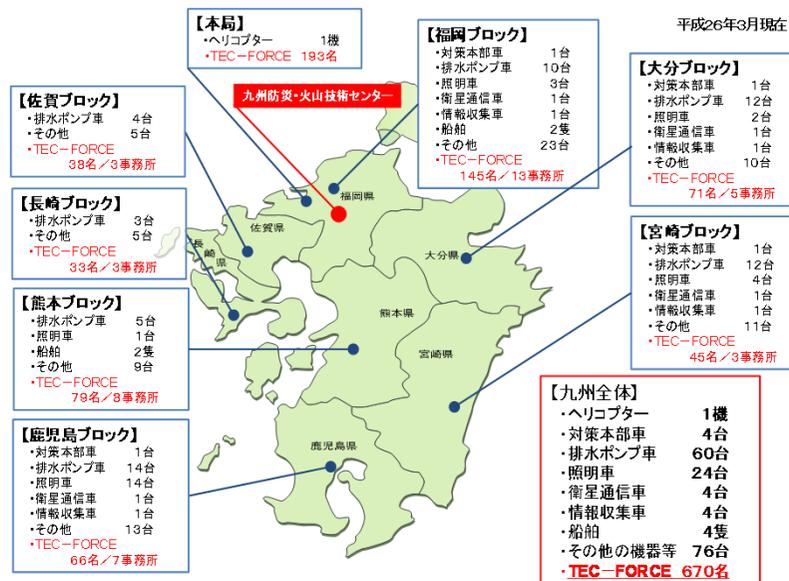
提供) 九州運輸局

<宮崎県高原町と九州地方整備局との調印式>



出典) 九州地方整備局

<九州地方整備局の防災体制>



提供) 九州地方整備局

<大規模な災害時の応援に関する協定(九州地方整備局)
(2014年6月12日時点)>

協定締結状況(政令市除く)							
福岡	佐賀	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島	計
58	20	21	44	18	26	43	230
							100%

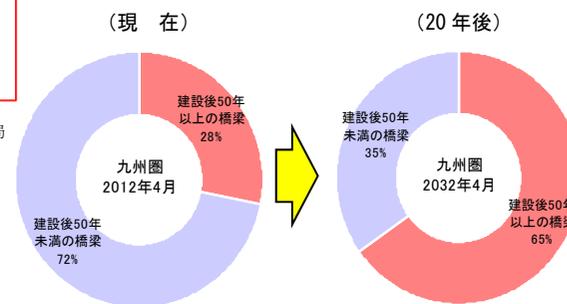
出典) 九州地方整備局

<橋梁技術講習会 現地実習実施状況>



提供) 九州地方整備局

<社会資本の老朽化(建設後50年以上の
橋梁(2m以上)の箇所数)>



出典) 九州地方整備局

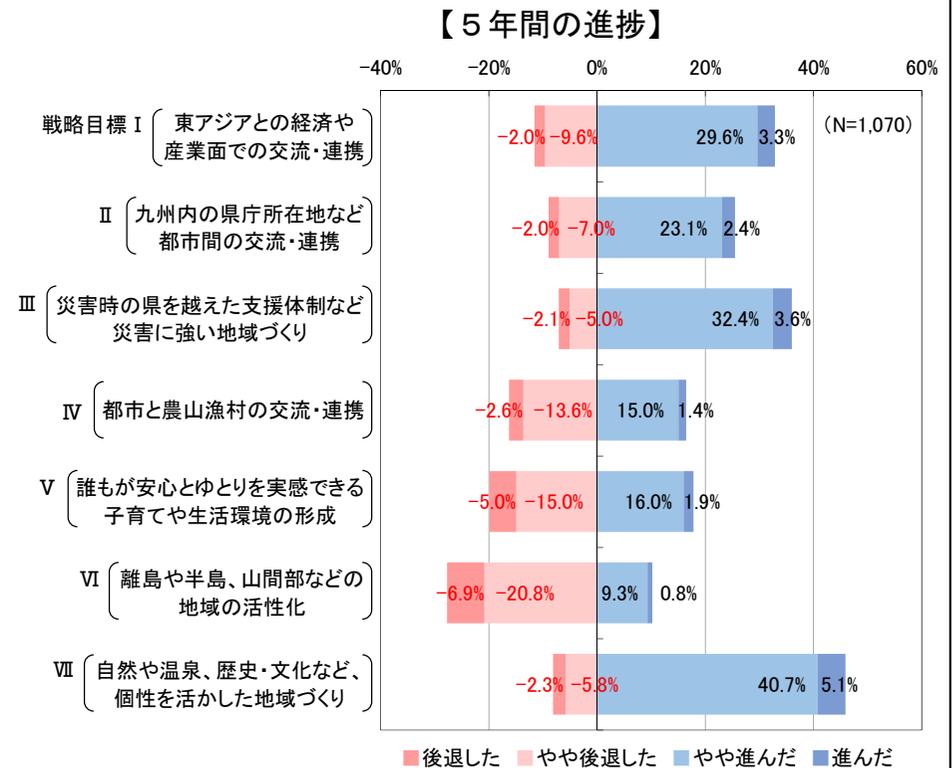
戦略目標の進捗状況(全体)

- ・「Ⅰ 東アジアへのフロントランナーとして発展する九州圏の形成」、「Ⅱ 基幹都市圏を核とした多極型圏土構造と九州圏の一体的な発展」、「Ⅲ 災害・環境ハザード最前線の安全・安心で美しい九州圏の形成」、「Ⅶ 各地域の個性を活かした先導的な地域づくり」については、**進捗がみられる**ところ。
- ・一方で、「Ⅳ 拠点都市圏と多自然居住地域の交流による都市自然交流圏の形成」、「Ⅴ 生活中心都市を核とした安心でゆとりある基礎生活圏の形成」、「Ⅵ 離島・半島、中山間地域等の地理的制約を克服する豊かな定住環境の形成」については、**進捗している状況とまでは評価できない**ところ。
- ・現行計画全体では、**緩やかな進捗がみられる**と評価できるが、今後は、より広域なアジア地域との経済・産業交流、ゲートウェイ機能の強化、基幹都市圏間の交流・連携、防災・減災対策の広域支援体制の充実を進めるとともに、多様な地域資源を活かした離島部等の活性化、基礎生活圏における豊かな生活環境の形成の取組強化が求められている。

<戦略目標の進捗状況(総括表)>

戦略目標	①モニタリング指標 (良い傾向指標数) -(悪い傾向指標数)	②取組状況	中間評価
Ⅰ 東アジアへのフロントランナーとして発展する九州圏の形成	+3	5年間の 取組状況 (後述)	着実に進捗している
Ⅱ 基幹都市圏を核とした多極型圏土構造と九州圏の一体的な発展	+5		着実に進捗している
Ⅲ 災害・環境ハザード最前線における安全・安心で美しい九州圏の形成	+5		着実に進捗している
Ⅳ 拠点都市圏と多自然居住地域の交流による都市自然交流圏の形成	-1		進捗している状況とまでは評価できない
Ⅴ 生活中心都市を核とした安心でゆとりある基礎生活圏の形成	-2		進捗している状況とまでは評価できない
Ⅵ 離島・半島、中山間地域等の地理的制約を克服する豊かな定住環境の形成	-2		進捗している状況とまでは評価できない
Ⅶ 九州圏の各地域の個性を活かした先導的な地域づくり	+5		着実に進捗している

<九州圏広域地方計画の進捗等に関するインターネットアンケート結果>
(H26.5)



戦略目標Ⅰの中間評価（東アジアへのフロントランナーとして発展する九州圏の形成）

①計画の進捗状況

指標分析では、四輪自動車生産台数（2割増）や外国人入国者数（4割増）など、良い傾向にある指標が多い。

5年間のうちに、東南アジア各国とのMOU締結や、九州一体となった農林水産物フェアの開催、九州アジア観光アイランド特区の指定、港湾・空港におけるゲートウェイ機能の強化などが進んでおり、アンケート結果でも進捗しているとの評価。

➡『着実に進捗している』と評価できる。

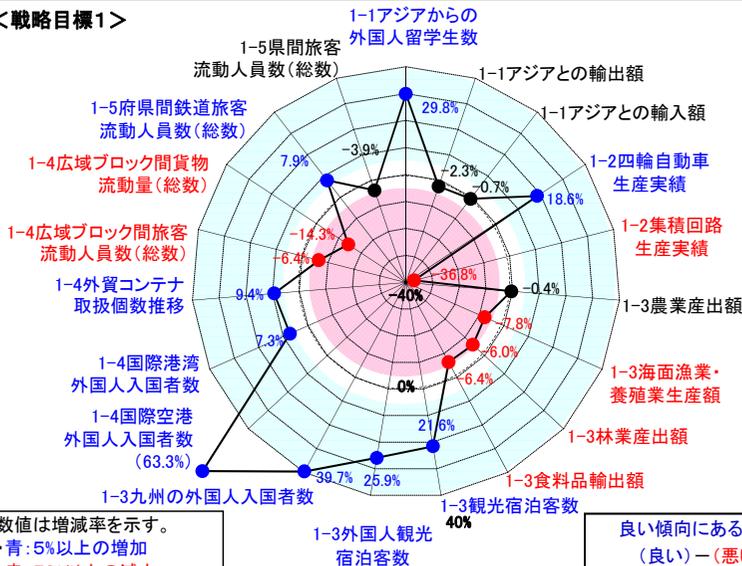
【指標分析】 現行計画のモニタリング19指標のうち、良い傾向にある指標が9、悪い傾向にある指標が6。

※進捗状況を把握するため、当初モニタリング(H21年度)から設定されている指標

【5年間に行われた主な取組】

- [1-1] 環黄海経済・技術交流会議の開催、九州経済国際化推進機構等による東南アジア各国と経済交流覚書（MOU）締結、中小企業の海外展開支援
- [1-2] 北部九州自動車150万台先進生産拠点推進構想の推進、東九州メディカルバレー構想特区の指定
- [1-3] オール九州農水産物トレードフェアの開催、特定家畜伝染病に対する対策マニュアル策定、九州アジア観光アイランド総合特区の指定、クルーズ客船受け入れ施設の整備、九州オルレの整備
- [1-4] 福岡-アムステルダム便の就航、LCC佐賀-上海便の就航、国際物流ターミナルの整備(博多・伊万里・八代・細島港)
- [1-5] 九州新幹線の全線開業、新幹線駅からの二次交通の整備

<戦略目標1>



【環黄海経済・技術交流会議の様子】



【オール九州農水産物トレードフェアin香港】



【ベトナム計画投資省との協議】



【外国クルーズ船の入港風景】



戦略目標Ⅰの中間評価（東アジアへのフロントランナーとして発展する九州圏の形成）

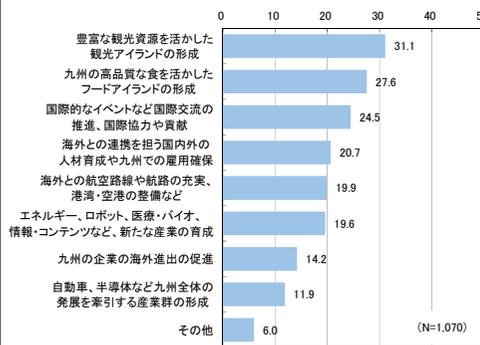
②今後の方向

戦略目標の実現に向け、現行計画の着実な実施に加え、アジア各国とのMOU締結等を通じた交流・連携の促進や、医工連携による生活支援ロボット開発など成長期待産業の育成・支援を推進する。

【アンケート結果】

・東アジアとの経済や産業面での交流・連携のために、観光アイランド及びフードアイランドの形成を望む声が多い(31%)。福岡県などが国際交流の推進を望む。

＜東アジアとの経済や産業面での交流・連携(九州全体)＞ (%)

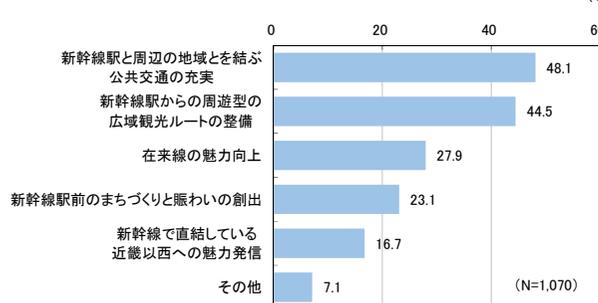


＜東アジアとの経済や産業面での交流・連携(県別)＞ (%)



・九州新幹線効果の持続については、新幹線駅からの二次交通の充実(48%)や広域的な観光ルートの整備(44%)までを望む声が多い。

＜九州新幹線効果の持続(九州全体)＞ (%)



【新たな施策・取組】

青文字:新たな施策 緑文字:新たな取組

- ・広域アジアとの経済交流(MOU)の締結促進
- ・インターナショナル・ビジネス・センター(IBC)の設置等
- ・環境姉妹都市提携の覚書締結

➡ ・広域アジアとの人的、物的、文化、技術、経済等の交流・連携の促進

【タイ投資委員会とのMOU締結】



- ・ロボット産業振興会議の設立、実証実験による市場開拓、技術実用化の支援
- ・ヘルスケア産業推進協議会の設立等
- ・医療機器産業研究会の設立等

➡ ・医工連携による医療・介護・生活支援ロボットの開発

【生活支援ロボット】



- ・唐津コスメティック構想、ジャパコンコスメティックセンターの開設
- ➡ ・コスメティック産業クラスターの形成

【ジャパコンコスメティックセンターの設立】



- ・ハラール対応施設整備等の支援
- ➡ ・拡大するハラール市場への参入促進

- ・HACCPや有機JAS認証取得等による販路開拓
- ・九州地域の森林・林業・木材産業アクションプランの策定
- ➡ ・安全で高付加価値な農林水産品の輸出促進

- ・第二期九州観光戦略等の策定、特区の指定、特区ガイド育成
- ・WiFi環境の整備促進
- ➡ ・九州一体となった観光戦略の推進

【九州観光のロゴマーク】



- ・東アジア地域のLCC誘致促進、国際線旅客ターミナルの整備
- ➡ ・格安航空会社(LCC)の就航促進

戦略目標Ⅱの中間評価(基幹都市圏を核とした多極型圏土構造と九州圏の一体的な発展)

①計画の進捗状況

指標分析では、基幹都市圏への第三次医療施設（3箇所増）、特許登録件数（3割増）など、良い傾向にある指標が多い。

5年間のうちに、博多駅などの新幹線駅前の複合施設の整備、MICE施設の誘致促進、東九州自動車道などの基幹都市圏を連携する高速交通網の整備、高速情報通信体系の整備が進んでおり、アンケート結果でもこれらの関連項目が進捗しているとの評価。

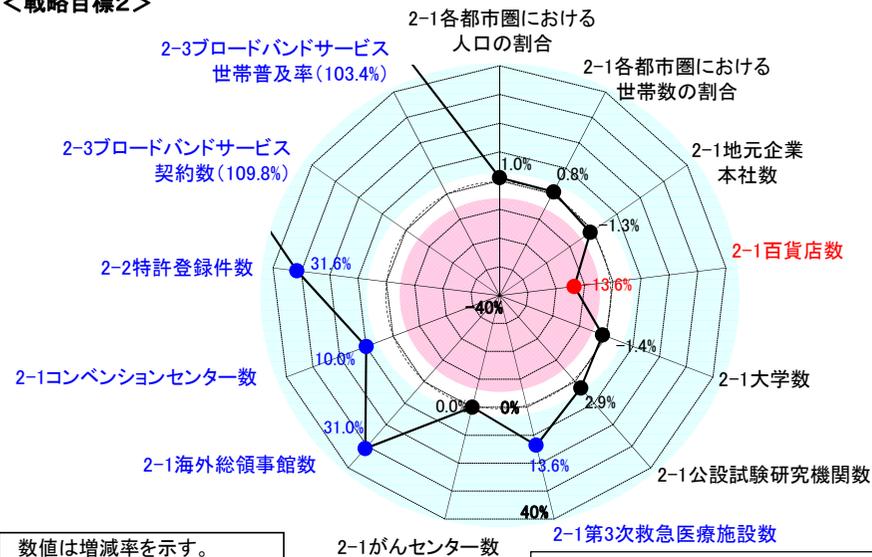
➡『**着実に進捗している**』と評価できる。

【指標分析】 現行計画のモニタリング13指標のうち、良い傾向にある指標が6、悪い傾向にある指標は1。

【5年間に行われた主な取組】

- [2-1] 国家戦略特区の指定
- [2-1] 福岡・熊本・鹿児島での九州新幹線開通に合わせた駅前複合施設の整備・拠点機能の強化
- [2-1] 九州観光推進機構と九州各県と連携した九州圏のMICE施設等のPR、誘致促進
- [2-2] 九州女性起業フォーラムや、九州各地での国際音楽祭や芸術祭の開催（魅力ある都市の形成）
- [2-3] 東九州自動車道、西九州自動車道、九州横断自動車道等の順次開通、九州新幹線の全線開通
- [2-3] 高速情報通信体系の整備促進、ブロードバンド契約数・世帯普及率の進展

<戦略目標2>



数値は増減率を示す。
 ・青: 5%以上の増加
 ・赤: 5%以上の減少

良い傾向にある指標が多い
 (良い)-(悪い)=+5

【JR博多駅前地区整備】



提供) 福岡市

【第1回九州女性起業フォーラム】



提供) 九州経済産業局

【東九州自動車道 北川IC付近】



提供) 九州地方整備局

【MICE(第71回全国都市問題会議)】



提供) 熊本市

【九州新幹線百日祝い出発式】



出典) 福岡県

戦略目標Ⅱの中間評価(基幹都市圏を核とした多極型圏土構造と九州圏の一体的な発展)

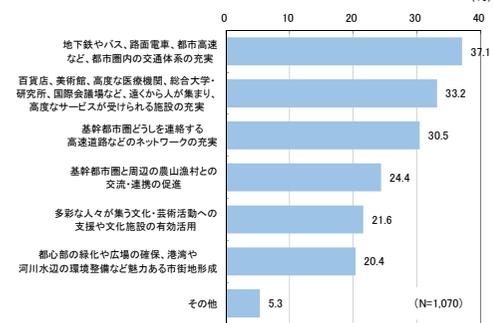
②今後の方向

戦略目標の実現に向け、現行計画の着実な実施に加え、九州で唯一24時間利用可能な北九州空港の利点を活かした航空貨物拠点化などを推進する。

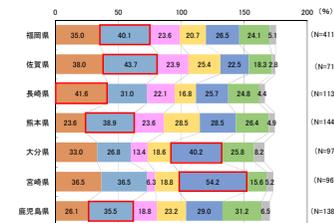
【アンケート結果】

・基幹都市圏の維持・発展のため、都市圏内の交通体系の充実を望む声が多い(37%)。大分県・宮崎県などは高速道路の整備、長崎県は高次都市機能の充実を望む声が多い。

<基幹都市圏の維持・発展(九州全体)>



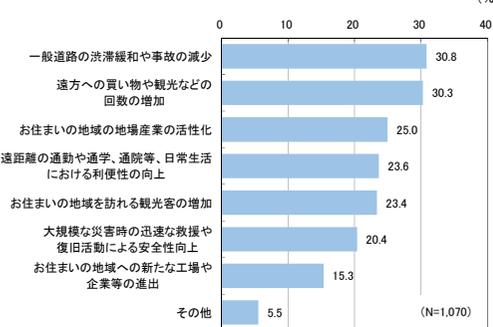
<基幹都市圏の維持・発展(県別)>



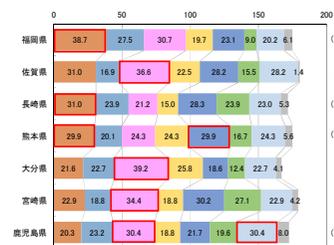
■百貨店、美術館、高度な医療機関、総合大学・研究所、国際会議場など、遠くから人が集まり、高度なサービスが受けられる施設の充実
 ■地下鉄やバス、路面電車、都市高速など、都市圏内の交通体系の充実
 ■基幹都市圏と周辺の農山漁村との交流・連携の促進
 ■多様な人々が集う文化・芸術活動への支援や文化施設の有効活用
 ■都心部の緑化や広場の確保、港湾や河川水辺の環境整備など魅力ある市街地形成
 ■その他

・高速道路整備への期待として、一般道路の渋滞緩和や遠方への外出回数の増加への期待が多い(31%)。鹿児島県などは、訪れる観光客の増加に対する期待が多い。

<高速道路整備への期待(九州全体)>



<高速道路整備への期待(県別)>



■一般道路の渋滞緩和や事故の減少
 ■遠距離の通勤や通学、通院等、日常生活における利便性の向上
 ■遠方への買い物や観光などの回数の増加
 ■大規模な災害時の迅速な救援や復旧活動による安全性向上
 ■お住まいの地域の地場産業の活性化
 ■お住まいの地域への新たな工場や企業等の進出
 ■お住まいの地域を訪れる観光客の増加
 ■その他

【新たな施策・取組】

青文字:新たな施策 緑文字:新たな取組

- ・国際航空貨物に対する助成や国内向け生鮮貨物の輸送支援
- ・集荷活動、定期貨物便の増便、路線の安定、新規路線誘致の取組
- 九州で唯一24時間利用可能な北九州空港の利点を活かした国際的な航空貨物拠点化の推進

【東九州自動車道沿線の主要産業立地】



【北九州空港】



出典) 福岡県

出典) 大分県、宮崎県HP、九州経済調査協会資料

【国際貨物定期便】



出典) 福岡県

【人工衛星の輸送】



出典) 福岡県

戦略目標Ⅲの中間評価（災害・環境ハザード最前線における安全・安心で美しい九州圏の形成）

①計画の進捗状況

指標分析では、耐震化率（4割増）、新エネルギー導入量（5%増）など、良い傾向にある指標が多い。

5年間のうちに、北部九州豪雨からの復旧、大規模災害に備えた広域連携の推進、進行する老朽化への対策の推進、ゴミの減量対策、太陽光などの再生可能エネルギーの導入・開発などが進んでおり、アンケート結果でも進捗しているとの評価。

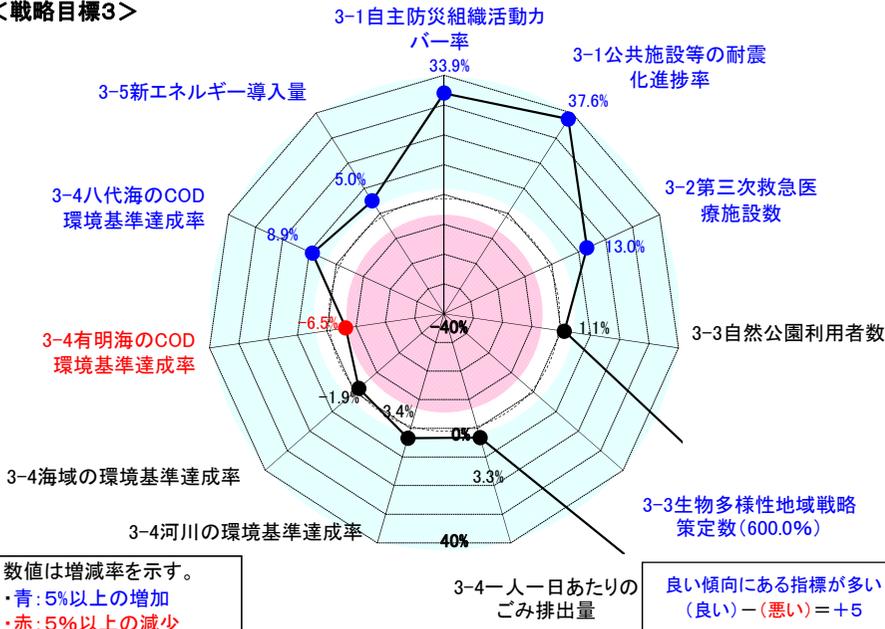
➡『着実に進捗している』と評価できる。

【指標分析】 現行計画のモニタリング11指標のうち、良い傾向にある指標が6、悪い傾向にある指標は1。

【5年間に行われた主な取組】

- [3-1] 九州北部豪雨からの復旧、新燃岳噴火に伴う土石流対策、嘉瀬川ダム・大山ダム・稲葉ダムの完成、南海トラフ巨大地震・津波対策の推進、耐震強化岸壁の整備
- [3-1] 社会資本の老朽化対策・長寿命化に向けた技術者育成
- [3-2] 大規模災害を想定した総合防災訓練、応援協定の締結、九州地方知事会と関西広域連合の相互応援協定、ドクターヘリの広域運用、TEC-FORCE・リエゾンの派遣
- [3-4] グリーンアジア国際戦略総合特区の指定
- [3-4] 北九州市「環境未来都市」への選定、ごみゼロ九州キャンペーンの実施、響灘ビオトープの開園
- [3-5] ながさき海洋・環境産業拠点特区の指定
- [3-5] 九州ソーラーネットワークの設立、再生可能エネルギーの導入、北九州スマートコミュニティ実証

<戦略目標3>



【九州北部豪雨の復旧状況 (国道57号滝室坂)】



【嘉瀬川ダム】



【道路橋点検の現地実習】



【SONEQ設立記念セミナー】



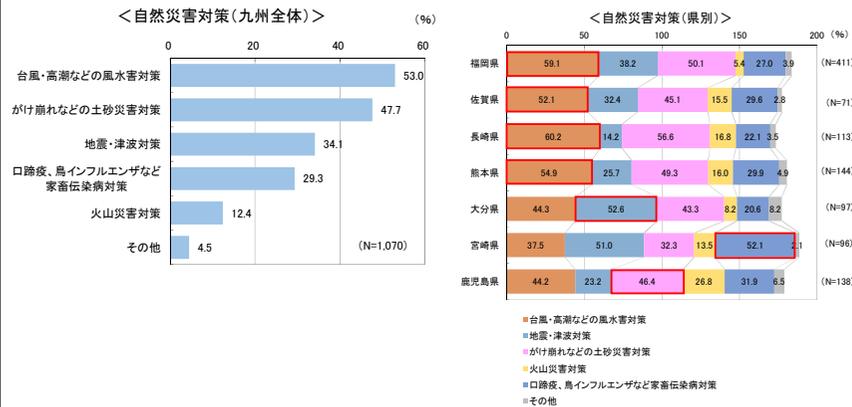
戦略目標Ⅲの中間評価（災害・環境ハザード最前線における安全・安心で美しい九州圏の形成）

②今後の方向

戦略目標の実現に向け、現行計画の着実な実施に加え、人材育成・市町村支援などを含む総合的な老朽化対策や、河川法改正を踏まえた小水力発電の導入などを進める。

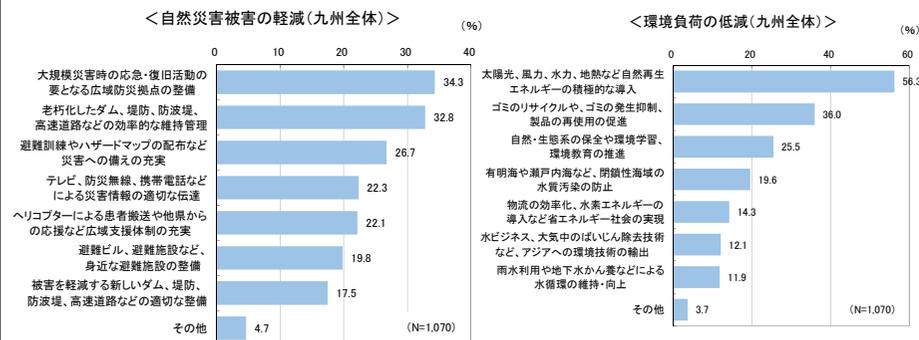
【アンケート結果】

・自然災害対策については、風水害対策、土砂災害対策を望む声が多い(53%)。宮崎県では家畜伝染病対策を望む声が多い。



・被害の軽減方法として、広域防災拠点の整備や老朽化がすすむ社会資本の維持管理を望む声が多い(34%)。

・環境負荷の低減については、再生可能エネルギーの導入推進を望む声が多い(56%)。



【新たな施策・取組】

青文字:新たな施策 緑文字:新たな取組

- ・長寿命化計画、公共施設等総合管理計画、個別施設計画等の策定
 - ・資産マネジメント推進室の設置、資産マネジメントの現状分析及び考え方の整理
 - ・人材育成
- **総合的な老朽化対策の推進**

【道路橋点検現地実習】



出典)九州地方整備局

- ・災害時の情報収集・伝達・共有における防災GIS情報通信技術の活用
- ・要援護者データと住民基本台帳データを導入した災害対応支援システムの運用

→ **先進の情報通信技術を活用した防災・減災対策の取組**

- ・PM2.5等の常時監視、自動測定、情報提供、注意喚起、発生源の推定
- ・環境保護友好交流協力協定の締結、海外研修生の受け入れ、職員派遣

→ **微小粒子状物質(PM2.5)の越境大気汚染対策の推進**

【環境保護友好交流協力協定】



出典)環境省

- ・ダムや農業水利施設を活用した発電事業
- ・産学官連携による研究会の設立、企業等による事業化に向けた準備
- ・市町村連携による発電所の建設
- ・全国小水力発電サミットの開催等による情報発信、普及・啓発

→ **小水力発電の導入促進**

【新曾木小水力発電所】



出典)鹿児島県

戦略目標Ⅳの中間評価（拠点都市圏と多自然居住地域の交流による都市自然交流圏の形成）

①計画の進捗状況

指標分析では、道の駅数（11箇所増）の一方で、総合スーパー数（16%減）、貨物流動（8%減）と良い傾向にない指標が多い。

5年間のうちに、中心部の区画整理や連続立体交差、コミュニティバスの運行などによる良好な都市環境の形成や、体験型教育旅行等による都市と地方との交流等が図られているものの、人口減など拠点都市としての機能減退が依然進んでおり、アンケート結果でも進捗していないとの評価。

➡ 『進捗している状況とまでは評価できない』。

【指標分析】 現行計画のモニタリング7指標のうち、良い傾向にある指標が1、悪い傾向にある指標が2。

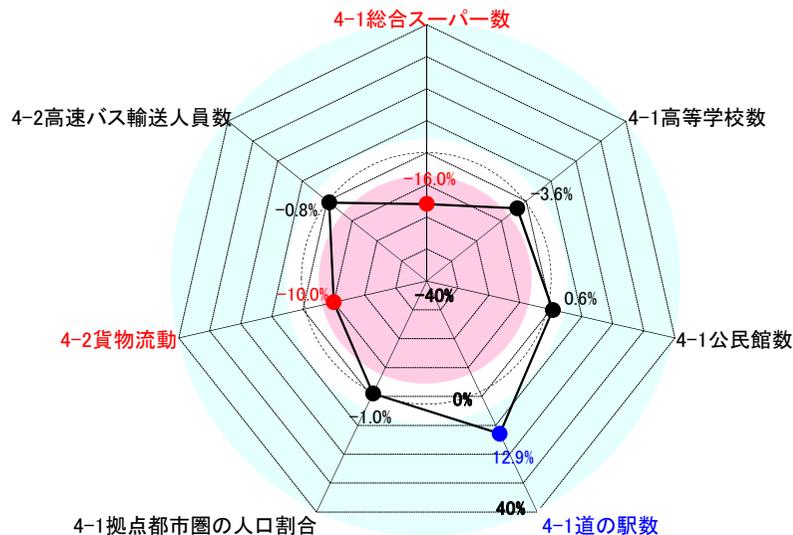
【5年間に行われた主な取組】

[4-1] 豊後高田昭和の町地区、新宮町緑ヶ浜周辺地区、日向市駅周辺地区の拠点都市における中心市街地活性化の取組。大分駅付近連続立体交差事業、五ヶ瀬大橋（延岡市）の新設による都市交通の円滑化や良好な都市環境の確保を図る取組。

[4-1] コミュニティ路線バス・デマンドタクシーによる生活支援機能の維持、肥薩おれんじ鉄道の観光交流促進による地域交通の維持。

[4-2] グリーン・ツーリズムによる農家への民泊を伴った体験型教育旅行、子ども農山漁村交流プロジェクト、ちくご定住促進プロジェクト、酪農体験の実施による都市自然交流圏の形成

<戦略目標4>



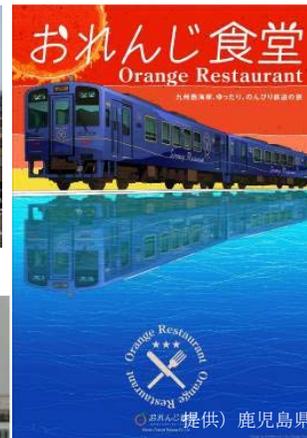
数値は増減率を示す。
 ・青: 5%以上の増加
 ・赤: 5%以上の減少

良い傾向にある指標が少ない
 (良い) - (悪い) = -1

【日向市駅周辺地区の整備】



【観光列車「おれんじ食堂」】



【酪農作業体験の様子】



【コミュニティバスの運行】



【道の駅「そよ風パーク」】



戦略目標Ⅳの中間評価（拠点都市圏と多自然居住地域の交流による都市自然交流圏の形成）

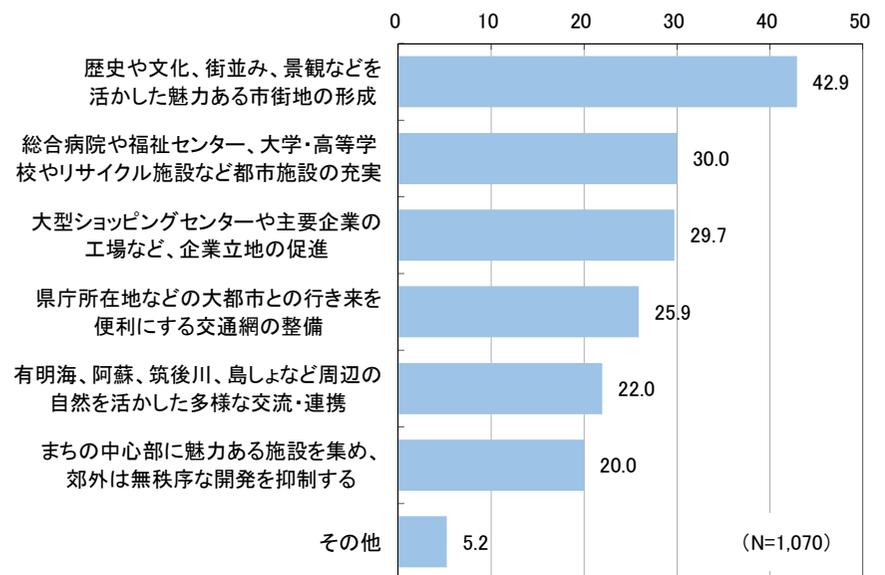
②今後の方向

戦略目標の実現に向け、現行計画の着実な実施に加え、公共施設の民間の運営などによる既存施設の再生・賑わいの創出などを進める。

【アンケート結果】

・拠点都市圏の維持・発展については、地域資源を活かした魅力ある市街地の形成(43%)、都市施設の充実、企業や工場の立地促進(30%)を望む声が多い。

＜中規模都市圏の維持・発展(九州全体)＞ (%)



【新たな施策・取組】

青文字:新たな施策 緑文字:新たな取組

- ・行政・地域住民等との連携によるリノベーションの手法を用いた空きオフィスなど遊休不動産のsmallオフィスへの転用、有効活用、地域のキーマンとなる人材の発掘・育成、雇用の創出
- ・民間のノウハウを活かした、観光情報センター、カフェ、図書館、ビジネス支援センター、会議室などを備えた複合施設等の指定管理者制度による施設運営

→ **公共施設の民間運営などによる既存施設の再生・賑わいの創出**

【空き店舗(改装前)】



【デザイナーやクリエイター向けインキュベーション施設(改装後)】



【小倉家守リノベーションスクール説明会】



【民間運営の図書館】



【民間運営の施設内カフェ】



戦略目標Ⅴの中間評価（生活中心都市を核とした安心でゆとりある基盤生活圏の形成）

①計画の進捗状況

指標分析では、生活中心都市への転入者数（11%減）、基幹産業である漁業・林業産出額の減少など、良い傾向にない指標が多い。

5年間のうちに、周産期医療センターの整備などの子育て支援や、ねんりん大学などの高齢者の社会参加支援、農林水産製品のブランド化による6次産業化が進められているものの、依然として就業者数の減少などが進んでおり、アンケート結果でも進捗していないとの評価。

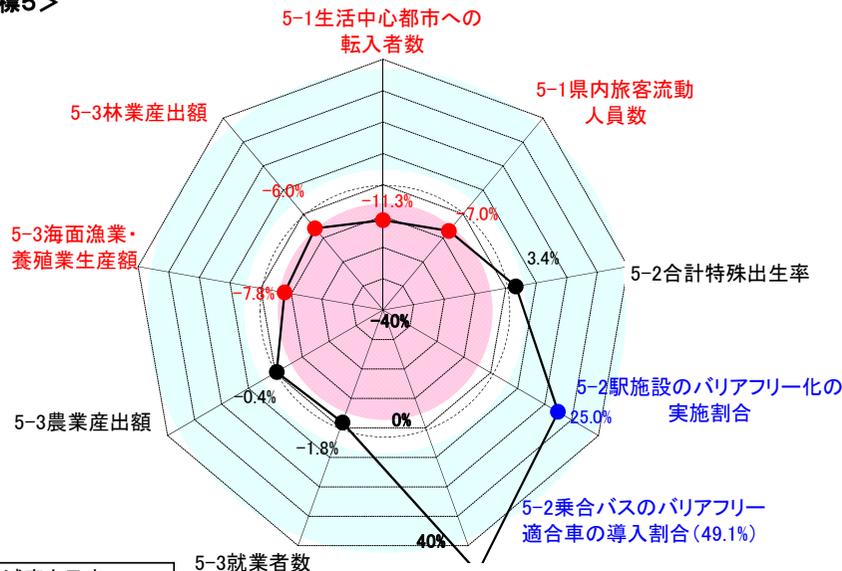
➡ 『進捗している状況とまでは評価できない』。

【指標分析】 現行計画のモニタリング9指標のうち、良い傾向にある指標が2、悪い傾向にある指標が4。

【5年間に行われた主な取組】

- [5-1] コミュニティ食堂の設置や定期的な「市」の開催、商店街グルメのグランプリやマップ作成によるまちなかの新たな賑わいの創出
- [5-2] 周産期母子医療センターの整備など地域社会で安心して子供を産み育てることができる環境の形成
- [5-2] 社会参加のために必要な知識の習得機会を提供する「かごしまねんりん大学」開設
- [5-3] 九州一体となって輸出拡大に向けた海外での商談会「オール九州農水産物トレードフェアin香港」開催
- [5-3] 農林水産物の独自ブランド確立のための認証制度導入や首都圏等へのPR活動

<戦略目標5>



数値は増減率を示す。
 ・青: 5%以上の増加
 ・赤: 5%以上の減少

良い傾向にある指標が少ない
 (良い) - (悪い) = -2

【知産知商 KYUSHOP】



【かごしまねんりん大学
地域デビュー総合コース】



【周産期母子医療センター内診療風景】



【オール九州農水産物トレードフェアin香港】



戦略目標Ⅴの中間評価（生活中心都市を核とした安心でゆとりある基盤生活圏の形成）

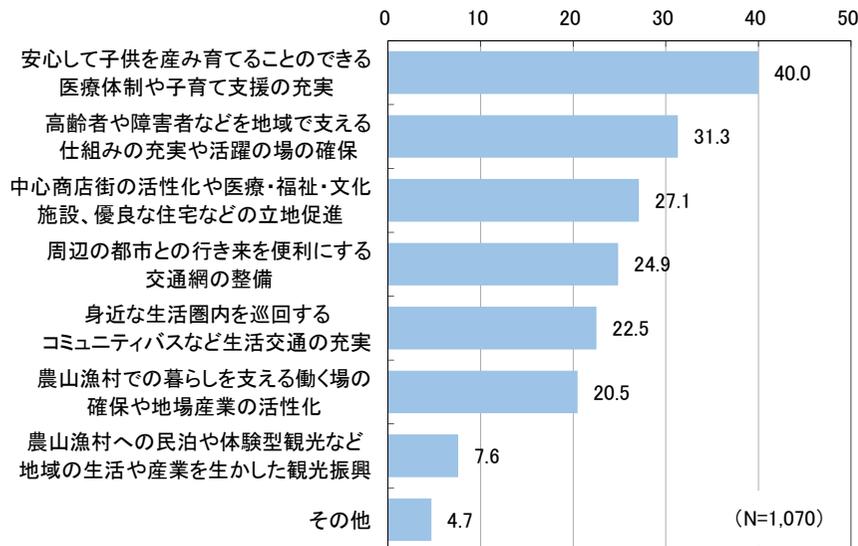
②今後の方向

戦略目標の実現に向け、現行計画の着実な実施に加え、少子高齢社会の到来を受けた70歳代の社会参画や、ブランド化による6次産業化の推進などを進める。

【アンケート結果】

・基盤生活圏の形成については、医療体制や子育て支援の充実、高齢者・障害者の活躍の場の確保を望む声が多い(40%)。

＜基礎生活圏の形成(九州全体)＞ (%)



【新たな施策・取組】

青文字:新たな施策 緑文字:新たな取組

- ・「福岡県70歳現役応援センター」設立
- ・求人開拓、就業・社会参加支援、「ふくおか子育てマイスター」の認定
- ・「九州・山口 70歳現役社会づくり研究会」設置
- ・高齢者雇用確保措置の導入促進、高齢者の就業支援、シルバー人材センターへの支援、高齢者の就業促進

【70歳現役応援センター】



提供) 福岡県

→ ・高齢者現役の社会づくりの推進

- ・サポートセンターの設置、フォーラム、推進会議、ファンド説明会の開催等
- ・独自品種の開発による商品のブランド化、高付加価値化、差別化
- ・くまもと県南フードバレー構想の策定、推進協議会の設立
- ・素材生産コストの縮減、素材の量の確保と規格選別、製材品の量と品質の確保

→ ・農林水産業の6次産業化の推進

【九州地域6次産業化推進会議】



提供) 九州農政局

【6次産業化推進研修会】



出典) 鹿児島県

戦略目標Ⅵの中間評価(離島・半島、中山間地域等の地理的制約を克服する豊かな定住環境の形成)

①計画の進捗状況

指標分析では、地理的制約等の厳しい地域の人口(4%減)や、離島の漁業漁獲量(12%減)など良い傾向にない指標が多い。

5年間のうちに、ドクターヘリの配備(5機増)や離島架橋などの道路、情報通信基盤の整備による生活環境の改善や、都市部と離島・中山間地との交流・連携の取組が積極的に展開されているものの、依然として人口減少、基幹産業縮小が進んでおり、アンケート結果でも進捗していないとの評価。

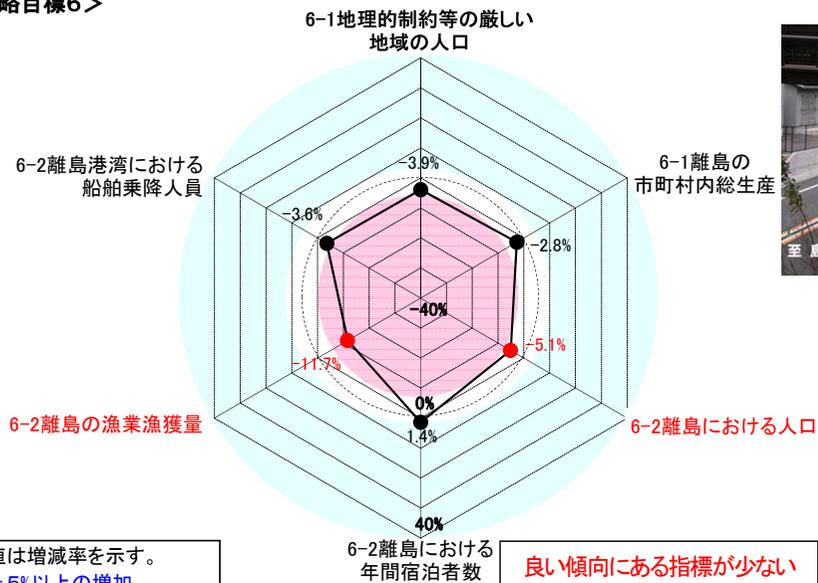
➡『進捗している状況とまでは評価できない』。

【指標分析】 現行計画のモニタリング6指標のうち、良い傾向にある指標が0、悪い傾向にある指標が2。

【5年間に行われた主な取組】

- [6-1] 半島部のバイパスや離島架橋の開通、ドクターヘリの配備増
- [6-1] 高速情報通信設備の整備進捗による遠隔医療システムの導入
- [6-2] 「樁による五島列島活性化特区」の指定
- [6-2] 離島航路・離島航空路にむけた島民割引導入、省エネ船舶の建造、共通予備船の導入
- [6-2] 離島地域を博物館に見立てる「あまみシマ博覧会」等の開催

<戦略目標6>



数値は増減率を示す。
 ・青: 5%以上の増加
 ・赤: 5%以上の減少

良い傾向にある指標が少ない
 (良い) - (悪い) = -2

【島原中央道路】



提供) 長崎県

【鷹島・肥前大橋 (佐賀県と長崎県を結ぶ橋)】



提供) 佐賀県

【樁関連商品の開発】



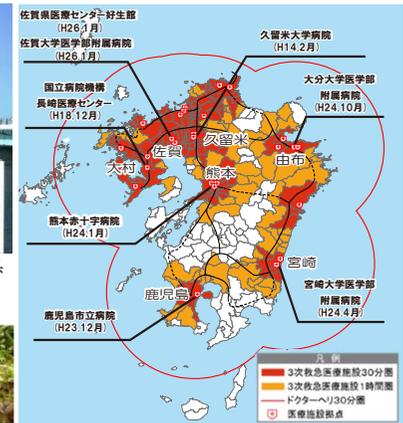
提供) 長崎県

【あまみシマ博覧会(泥染め体験)】



提供) 鹿児島県

【ドクターヘリの配備状況】



出典) 九州圏広域地方計画協議会事務局とりまとめ

戦略目標VIの中間評価(離島・半島、中山間地域等の地理的制約を克服する豊かな定住環境の形成)

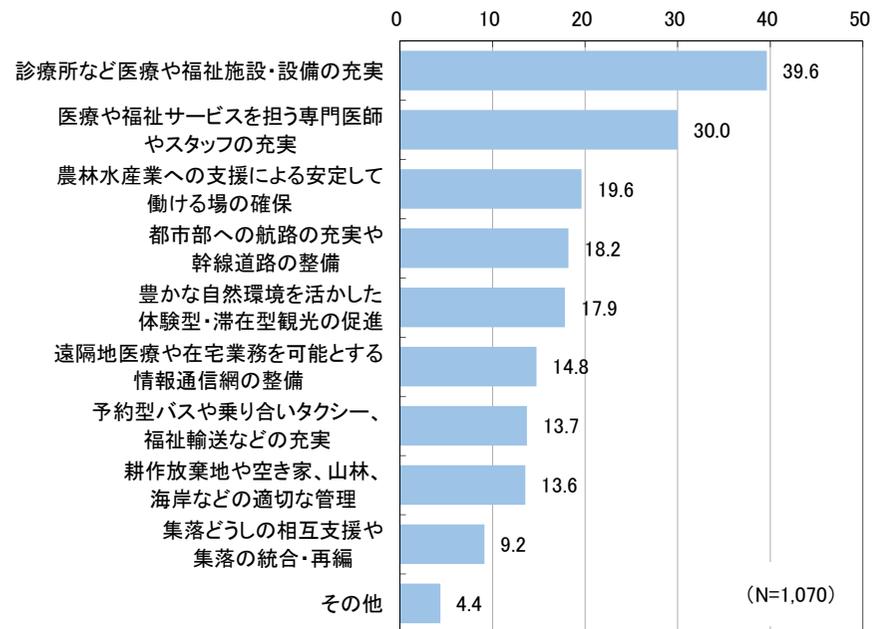
②今後の方向

戦略目標の実現に向け、現行計画の着実な実施に加え、先進技術を導入したエコアイランドの形成、離島における地域通貨の導入による交流人口の拡大などの取組みを推進する。

【アンケート結果】

・離島・半島・中山間地域の活力維持について、医療・福祉施設の充実(40%)や医師、スタッフの充実を望む声が多い(30%)。

＜離島・半島・中山間地域の活力維持(九州全体)＞ (%)



【新たな施策・取組】

青文字:新たな施策 緑文字:新たな取組

- ・風力発電の導入、電気自動車の導入、急速充電施設の整備、ITSを活用した未来型ドライブ観光システムの構築による「長崎EV&ITS(エビッツ)プロジェクト」の推進、
- ・屋久島におけるCO2フリーの島づくり、電気自動車、急速充電施設の整備

→ 先進技術を導入したエコアイランドの形成

【急速充電器・ITSスポット併設】



【屋久島における電気自動車試乗会】



- ・しまを訪れる観光客等がしまの加盟店で使用できる20%のプレミアム付き商品券「しまとく通貨」の発行支援

→ しま共通地域通貨の発行による観光交流人口の拡大

【しまとく通貨】



しまとく通貨が使用できるしま市町

- 対馬市
- 小値賀町
- 壱岐市
- 新上五島町
- 五島市
- 佐世保市宇久町
- 長崎市高島町

出典) しまとく通貨HP

戦略目標Ⅶの中間評価（九州圏の各地域の個性を活かした先導的な地域づくり）

①計画の進捗状況

指標分析では、地域団体商標数（2割増）、認証NPO法人数（4割増）と良い傾向にある指標が多い。

5年間のうちに、地域資源（世界遺産や農業遺産など）を活かした地域資源の魅力向上・交流人口の拡大や、NPO等との連携・協働による地域づくりが進んでおり、アンケート結果でも進捗しているとの評価。

➡『着実に進捗している』と評価できる。

【指標分析】 現行計画のモニタリング5指標のうち、良い傾向にある指標が5、悪い傾向にある指標は0。

【5年間に行われた主な取組】

[7-1] 九州・山口の近代化産業遺産群、長崎の教会群とキリスト教関連遺産、宗像・沖ノ島と関連遺産群の世界遺産登録に向けたシンポジウム、モニターツアー等による気運醸成。

[7-1] 千年の草原の継承と創造的な活用総合特区

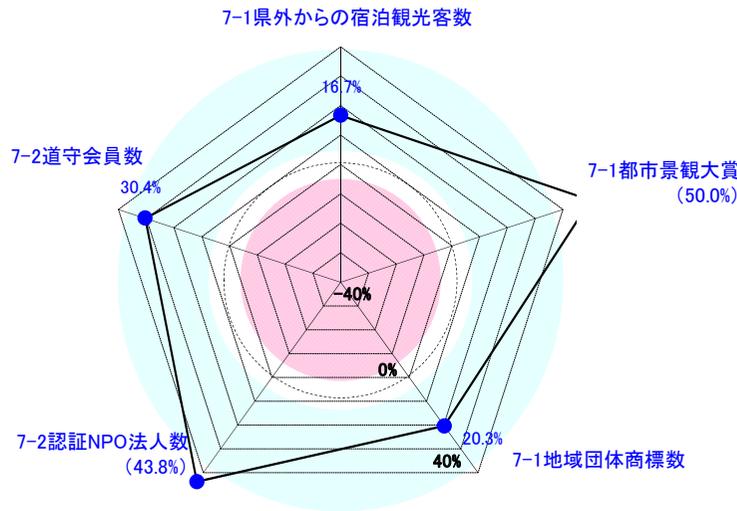
[7-1] 山本作兵衛の炭坑記録画を活用した田川地域の文化・歴史・自然等の魅力発信

[7-1] 古事記・日本書紀編纂1300年記念にむけた一般県民、ボランティアガイド向けの連続講座・講演会の開催

[7-1] 奄美地域の伝統文化である奄美島唄の伝承のためのフォーラムやDVDの作成

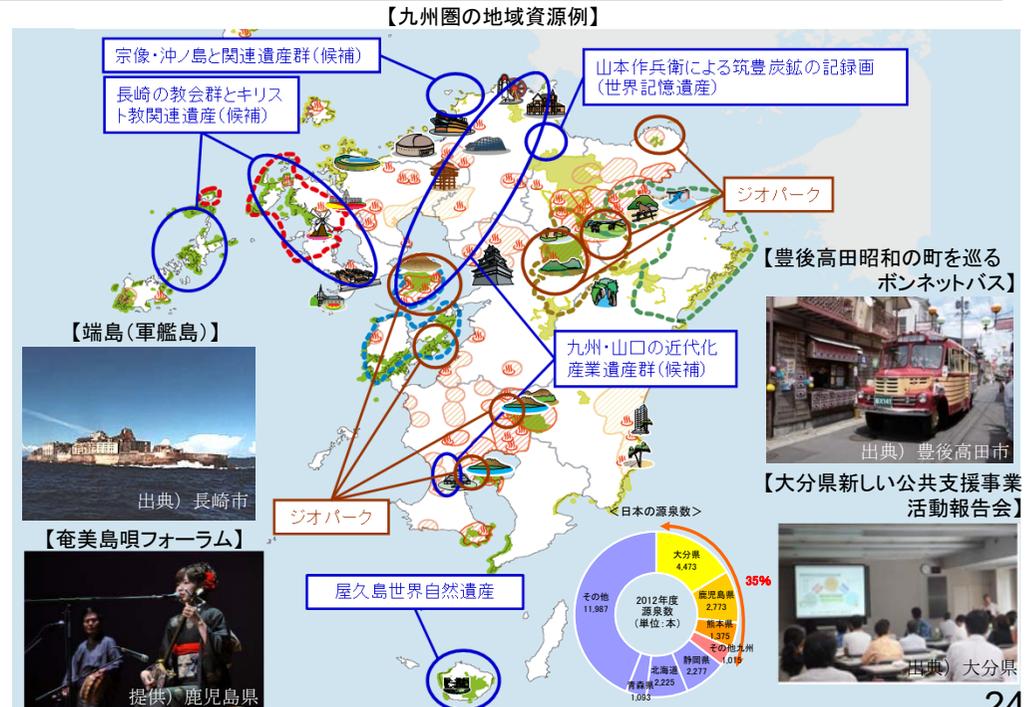
[7-2] グリーンツーリズムの誘致拡大や、NPOの活動を支援する基金の創設

<戦略目標7>



数値は増減率を示す。
 ・青: 5%以上の増加
 ・赤: 5%以上の減少

良い傾向にある指標が多い
 (良い)-(悪い)=+5



戦略目標Ⅶの中間評価（九州圏の各地域の個性を活かした先導的な地域づくり）

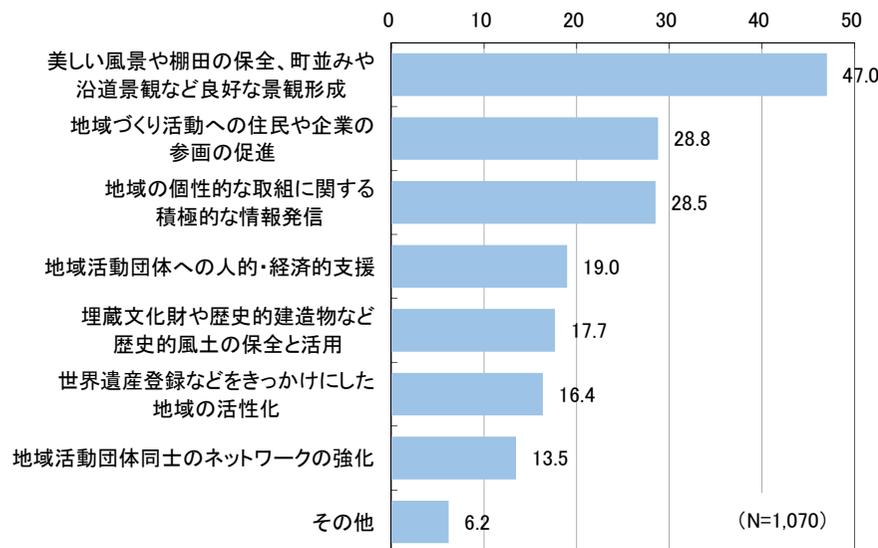
②今後の方向

戦略目標の実現に向け、現行計画の着実な実施に加え、**地域外の人材も活用した地域づくり**など、**地域資源を積極的に活用した地域づくり**を推進する。

【アンケート結果】

・創造的で魅力ある地域づくりについては、**良好な景観の形成（47%）**、**地域づくり活動への住民や企業の参加、地域づくりに関する積極的な情報発信を望む声が多い（30%）**。

＜創造的で魅力ある地域づくり(九州全体)＞ (%)



【新たな施策・取組】

青文字: 新たな施策 緑文字: 新たな取組

- ・地方自治体が地域外の都市住民を受入れ、一定期間以上、農林漁業等の各種地域協力活動に従事してもらう地域おこし協力隊の取組
- ・地域資源と域外企業の社員とを結び付けることにより地域資源を最大限に活かす二地域就労の促進

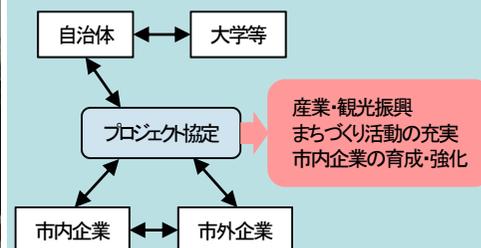
→ **地域外の人材も活用した地域づくりの推進**

【地域おこし協力隊員との協議(対馬市)】



出典) 総務省

【二地域就労のイメージ】



出典) 九州圏広域地方計画協議会事務局とりまとめ